

目 次

〈 繊維情報 〉

・2006年1月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2005年12月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	7
・アジア 中 国 2005年の繊維品貿易・輸出は史上初の1,000億ドル突破、輸入は微増.....	10
タ イ 2005年の繊維品貿易・輸出は堅調、輸入は高水準で推移.....	13
・米 州 米 国 2005年の繊維品輸入、史上最高輸入量を記録.....	16
2006年1月の大手小売店販売、順調に推移.....	18

〈 組合関係の会議と催事 〉

・(2006年2月)(2006年3月のスケジュール).....	21
---------------------------------	----

〈 組合業務報告 〉

・繊維品輸出荷主連合会(TSA)、「博多港港湾見学会」を実施(輸出).....	23
・東京・大阪・名古屋で「貿易実務の基礎-実践編研修会」を開催(輸入).....	24

〈 お知らせ 〉

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	27
・安全保障貿易に係る輸出管理の厳正な実施について(輸出).....	28
・4月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	31

〈 組合員情報 〉

・組合員情報.....	31
・海外取引照会・展示会案内.....	32



◎ 2006年1月の繊維品輸出概況

I. 繊維品全体の輸出

－前年同月比 17%減の 4 億 7,935 万ドルと大幅に減少－

2006年1月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 17%減の 4 億 7,935 万ドルと大幅に減少、厳しい出足となった。2005年上半期は増勢基調で推移してきたが、下半期に入り減少に転じ、これで7ヶ月連続の減少推移となった。

但し、為替が2005年1月の 103.21 円に対し、2006年1月は 115.45 円と約 12%の円安推移となっていることから、円ベースでは 7%減の 553 億 4,000 万円とドルベースに比べれば減少幅は縮小されたものとなっている。

<主要地域別輸出>

1月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 73%を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが、前年同月比 20%減の 3 億 4,962 万ドルと、この7ヶ月減少が続き、また減少幅も拡大しており、この不振が全体の輸出減少の地域的な最大の要因となっている。

東アジアの主要国向けでは、フィリピン、マレーシアが健闘、シンガポールは横ばいに止まったが、その他市場は軒並み不振で、最大市場の中国が大幅な減少となったのを始め、香港、韓国、台湾、ベトナム、タイ、インドネシアが減少推移となった。中でも、わが国の繊維品輸出を牽引してきた持ち帰り中心の中国が、7ヶ月連続の減少と、不振が長期化している。懸念された現地調達進展が顕在化してきていると考えられ、先行きが懸念される。

純輸出市場向けは、シェア 5%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に増加推移となり、全体として 9%増の 2,168 万ドルと、オイル景気もあり、好調な推移となった。

欧米市場は対照的で、シェア 9%の EU は織物を始め軒並み不振で 22%減の 4,281 万ドルと大幅な減少となったが、同じくシェア 9%の米国は不織布を中心に、織物以外の品目が健闘し、4%増の 4,440 万ドルと増勢推移となった。

<主要商品別輸出>

1月の輸出を主要商品別にみると、各品目共に総じて不振で、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で 17%減、金額で 9%減となった。太宗の合繊綿は、数量で 19%減、金額で 11%減となった。この内、主力のアクリル綿は、主要国の中国、インドネシア、イランが不振で、数量で 21%減、金額で 12%減となった。

一方、ポリエステル綿も、中心のタイ、中国、EU、米国が落ち込み、数量で 13%減、金額で 22%減となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、主力の EU 向けが減少し、数量で 9%減（同 7%増）、金額で 15%減となった。

スフ綿は、主力の中国が半減となり、インドネシア、パキスタン、ベトナムは健闘したが、数量で5%減となった。但し、単価のアップにより、金額では3%増となった。

糸類の輸出は、数量で15%減、金額で22%減と、数量、金額共に2桁の減少推移となった。

主力の合繊長糸は数量で14%減、金額で24%減となった。その内訳は、ポリエステル糸は、中国は微増となったものの、米国、EUが共に振るわず、数量で14%減、金額で23%減となった。一方、ナイロン糸は、フィリピンは健闘したが、主要国のタイ、中国、EUが不振で、数量で29%減、金額で32%減となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は中国、香港等主力の東アジアが振るわず、数量で28%減、金額で40%減と大幅な減少となった。

また、人絹糸は、中国、フィリピンは伸びたが、韓国、EUが不振で、数量で17%減、金額で5%減となった。

太宗の織物類の輸出も、数量で15%減、金額で22%減と数量、金額共に引き続き低調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目のポリエステル長繊維織物は、数量で17%減、金額で16%減と数量、金額共に2桁の減少となった。

地域的には、全体の69%を占める東アジア向けは、韓国、シンガポールが好調に推移したが、中国を始め、香港、ベトナム、韓国、台湾、タイ、インドネシア等その他の主要国は軒並み不振に終わり、東アジア全体として17%減となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビアが好調に推移したものの、アラブ首長国、アフガニスタンが減少し、西アジア全体として13%減となった。

欧米市場向けは、EU向けは18%減、米国は4%減と共に減少した。

ナイロン織物は、数量で25%増、金額で16%増と主要織物の中では、唯一好調な推移となった。

シェア78%の東アジア向けは、香港が減少推移となったが、主力の中国が大きく伸び、全体として18%増となった。その他では、シェア9%の米国は2%減となったが、シェア4%のEUは155%増と急増した。

綿織物は、数量で16%減、金額で25%減と数量、金額共にこの6ヶ月減少が続いている。

83%のシェアを占める東アジア向けは、ベトナム、タイ、マレーシア等は増勢で推移したものの、最大市場の中国、香港、韓国、台湾が大幅に減少し、東アジア全体として11%減となった。その他の市場では、シェア8%の米国は32%減、EUも41%減と何れも大幅な減少に終わった。

ポリエステル短繊維織物は、数量で17%減、金額で20%減となった。

全体の65%を占める東アジア向けは、香港、シンガポールが大幅増となったが、圧倒的シェアを占める中国が大きく減少、またベトナム、タイ、台湾も不振で、東アジア全体として20%減となった。一方、シェア34%の民族衣装用の西アジアは、アラブ首長国が好調を維持したが、サウジアラビア、クエートが共に不振で、西アジア全体として11%減となった。

人絹織物は、数量で26%減、金額で19%減と数量、金額共に大きく減少した。

織維品輸出実績(2006年1月)

単位	2006年1月						2006年1月~1月						2005年実績					
	数量	金額		前年同月比	数量	ドル	数量	金額		前年同期比	数量	ドル	数量	金額				
		百万円	千ドル					百万円	千ドル					円	ドル	百万円	千ドル	
織維品総合計																		
原料(綿)合計	25,448	55,340	479,345	83	91	25,448	55,340	479,345	93	83	416,325	890,125	8,070,155					
スフ綿	4,867	7,647	66,232	83	91	4,867	7,647	66,232	83	91	416,325	107,785	978,717					
合繊綿	18,470	2,018	17,479	95	103	18,470	2,018	17,479	95	103	63,446	23,495	212,920					
(ポリエステル)	3,117	5,470	47,383	81	89	3,117	5,470	47,383	81	89	316,748	81,377	739,213					
(アクリル)	13,351	3,811	33,006	79	88	13,351	3,811	33,006	87	78	45,356	7,902	71,868					
糸合計	9,085	6,461	55,966	85	78	9,085	6,461	55,966	85	88	242,939	59,092	536,513					
人絹糸	855	768	6,655	83	95	855	768	6,655	83	106	12,825	9,694	87,856					
スフ糸	31	29	255	109	69	31	29	255	109	69	306	430	3,918					
合繊長糸	7,518	4,997	43,279	86	76	7,518	4,997	43,279	86	85	107,120	72,887	662,944					
(ナイロン)	1,833	1,261	10,919	71	68	1,833	1,261	10,919	71	76	23,971	16,878	153,473					
(ポリエステル)	2,527	1,147	9,934	86	77	2,527	1,147	9,934	86	87	39,619	17,695	161,032					
合繊短糸	213	179	1,550	65	69	213	179	1,550	65	77	4,378	3,565	32,329					
綿糸	382	285	2,465	101	86	382	285	2,465	101	97	5,539	4,213	38,005					
織物合計	68,881	20,811	180,264	85	78	68,881	20,811	180,264	85	87	1,220,280	359,644	3,257,966					
絹織物	486	727	6,296	115	78	486	727	6,296	115	87	8,261	13,387	121,576					
人絹織物	3,493	1,407	12,185	74	81	3,493	1,407	12,185	74	91	81,049	25,408	230,287					
スフ織物	914	371	3,212	90	68	914	371	3,212	90	76	12,425	5,168	46,859					
合繊長織物	31,547	6,891	59,690	90	86	31,547	6,891	59,690	90	96	569,130	121,600	1,100,943					
(ナイロン)	3,881	705	6,108	125	116	3,881	705	6,108	125	116	58,693	11,881	107,382					
(ポリエステル)	23,131	4,863	42,121	83	84	23,131	4,863	42,121	83	94	447,759	91,055	824,217					
合繊短織物	10,129	2,453	21,243	82	80	10,129	2,453	21,243	82	89	167,050	39,493	358,090					
絹織物	20,158	7,263	62,913	84	75	20,158	7,263	62,913	84	84	324,416	112,882	1,023,678					
毛織物	1,622	1,246	10,796	52	53	1,622	1,246	10,796	52	59	54,198	38,820	350,009					
不織布	44,511	4,199	36,368	106	103	44,511	4,199	36,368	106	115	592,985	55,758	505,607					
タイヤコード織物	1,032	170	1,475	112	109	1,032	170	1,475	112	122	15,300	2,565	23,416					
コート織物	830	2,087	18,077	88	92	830	2,087	18,077	88	103	17,585	42,650	387,386					
ニット生地		3,839	33,253		85		3,839	33,253		95		66,438	600,666					
アパレル		3,072	26,612		73		3,072	26,612		81		40,722	370,175					
その他		7,054	61,099		87		7,054	61,099		98		119,429	1,081,958					

(注) 1. 織維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。
 3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類~59類の一部商品。

シェア 62%の東アジアは、韓国が大幅に伸びたが、中国、香港が共に大きく減少し、東アジア全体として 33%減となった。シェア 20%の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国が共に好調に推移し、全体として 18%増となった。一方、欧米市場は、EU が 18%減、米国 22%減と揃って低調な推移となった。

毛織物は、数量で 48%減、金額で 47%減と数量、金額共にほぼ半減に近い激減となった。地域的には、東アジアが 97%とほぼ全量を占めている。中でも、圧倒的なシェアを占める持ち帰り用の中国、また香港が激減し、東アジア全体として 49%減となった。

不織布の輸出は、数量で 6%増、金額で 3%増と、全般的に不振の輸出状況の中で数量、金額共に堅調な推移となった。全体の 57%を占める東アジアは、中国、香港、タイが健闘したが、韓国が激減、台湾も不振で、全体として 18%減となった。

欧米市場は、シェア 29%の米国は 185%増と、このところ驚異的な伸びが続き、単独では最大の輸出市場となった。また、シェア 6%の EU は 28%減と大幅に後退した。

コーテッド織物の輸出は、数量で 12%減、金額で 8%減となった。

全体の 76%を占める東アジアは、ベトナムが好調に推移したが、大手輸出先の中国、香港が減少推移となり、全体として 11%減となった。欧米市場は、シェア 9%の EU は 2%減と微減に止まったが、一方シェア 5%の米国は 45%減と大幅な減少となった。

ニット生地の輸出は、数量で 6%減、金額で 15%減と数量、金額共に低調な推移となった。全体の約 9割強を占める東アジア向けは、ベトナム、タイは増加推移となったが、最大市場の中国、また香港、台湾、韓国は減少推移となった。一方、欧米市場向けは、米国、EU 共に前月に続き大幅な増加推移となった。

アパレルの輸出は、各品目共に軒並み後退推移となり、金額で 27%減となった。

内容的には、布帛製衣類の外衣類は、米国は伸びたが、中国、台湾、EU が不振で、金額で 31%減となった。下着類は、韓国、香港、米国が健闘したが、台湾、中国、EU が不振で、金額で 21%減（同 25%減）となった。

一方、ニット製衣類も、外衣類は、EU、米国、中国は増加したが、台湾、香港が激減し、金額で 24%減となった。一方、下着類も、香港、米国、EU は微増となったが、香港、中国、韓国が大幅に減少し、22%減となった。

Ⅱ. 原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ナイロン綿が増加推移となった他は、主力のアクリル綿をはじめ、ポリエステル綿、ビニロン綿、スフ綿がいずれも2桁の減少となり、全体では17%減の 25,448トンと大きく落ち込んだ。また、金額についても9%減の6,623万ドルとなった。

<糸輸出>

糸は、綿糸が微増推移となった他は、主力の合繊長繊維糸をはじめ全般的に低調な推移となり、全体では15%減の9,085トン、金額についても22%減の5,597万ドルとなった。

2006年1月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年1月				2005年1～12月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	4,867	95	17,479	359	63,446	95	212,920	336
合繊綿	18,470	81	47,383	257	316,748	98	739,213	233
ポリエステル	3,117	87	4,591	147	45,356	87	71,868	158
アクリル	13,351	79	33,006	247	242,939	100	536,513	221
他合繊綿	2,002	89	9,785	489	28,454	108	130,832	460
人絹糸	855	83	6,655	778	12,825	112	87,856	685
合繊長糸	7,518	86	43,279	576	107,120	97	662,944	619
ナイロン	1,833	71	10,919	596	23,971	87	153,473	640
ポリエステル	2,527	86	9,934	393	39,619	97	161,032	406
他合長糸	3,157	98	22,426	710	43,530	103	348,439	800
綿糸	382	101	2,465	646	5,539	114	38,005	686

出所：財務省統計

Ⅲ. 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

1月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ナイロン織物が好調な推移となったが、ポリエステル長繊維織物を始め、綿織物、毛織物の主要織物は、軒並み低調な推移となり、織物トータルで、数量で前年同月比15%減、金額で22%減と数量、金額共に不振の出足となった。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地、コーテッド織物も低調な推移となった。

市場的には、織物トータルで、主力の東アジアは、主要国では、シンガポール、インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシアが数量、金額共に前年同月を上回り、またベトナムは数量増の金額減と健闘したが、最大市場の中国を始め香港、韓国、台湾が数量、金額共に前年同月を下回った。特に、圧倒的なシェアを占める中国の不振が、織物輸出全体の先行きに大きな影を落としている。

純輸出市場では、西アジアは、オイル景気もあり、アラブ首長国、サウジアラビアが揃って数量、金額共に前年同月を上回り好調に推移した。

一方、欧米市場は、EU、米国共にポリエステル長繊維織物、綿織物等全般的に振るわず、数量、金額共に減少推移となった。

2006年1月の織・編物の輸出状況

単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比 %

	2006年1月			2005年1-12月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	486	6,296	115	8,261	121,676	113
人絹織物	3,493	12,185	74	81,049	230,237	104
スフ織物	914	3,212	90	12,425	46,859	76
合織（長）織物	31,547	59,690	90	569,130	1,100,943	93
ポリ（長）織物	23,131	42,121	83	447,759	824,217	91
ナイロン織物	3,881	6,108	125	58,693	107,382	106
合織（短）織物	10,129	21,243	82	167,050	358,090	100
ポリ（短）織物	9,250	19,676	83	153,276	330,261	102
綿織物	20,158	62,913	84	324,416	1,023,678	92
毛織物	1,622	10,796	52	54,198	350,009	92
コーテッド織物	830	18,077	88	17,585	387,386	102
ニット生地	10,691	33,253	94	181,657	600,666	102

(注) 1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

IV. 主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年1月の輸出は、金額（ドル）ベース（以下同じ）で、アパレルは総じて振るわず、全体では前年同月比27%減の26,612千ドルとなった。他方、その他の品目については、漁網・その他の網・網地は増加推移となったが、敷物及び細幅織物・紐類は減少推移となった。

2006年1月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、 金額：前年比%

	2006年1月		2005年1～12月	
	金額	前年 同月比	金額	前年 同期比
布帛製衣類・付属品	16,367	71	206,726	91
外 衣	10,563	69	123,480	102
下 着	3,475	79	42,549	75
スカーフ・マフラー	548	120	8,092	101
ニット製衣類・付属品	10,245	75	163,449	62
外 衣	3,580	76	56,946	54
下 着	5,018	78	70,589	58
敷 物	1,756	72	32,496	120
漁 網 ・ 網 ・ 網 地	2,298	111	39,517	124
細 幅 織 物 ・ 紐 類	11,597	86	191,191	101

◎ 2005年12月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

12月の輸入は、金額が円ベース前年同期比117.1%（前月比は94.2%）、ドルベース同102.5%（前月比は94.0%）、数量(重量)同100.9%（前月比は92.8%）と、円金額が5ヶ月連続で増加、ドル金額は2ヶ月ぶりに増加、数量は4ヶ月ぶりの増加となった。前月比は、前月同様に秋冬物の輸入ピークを過ぎ金額、数量ともに減少した。

糸類は、数量で前年同期比1.2%減と前月より減少幅を戻したものの7ヶ月連続で減少。内訳は、絹糸、綿糸、人織(短)糸が増加、毛糸、人織(長)糸、その他の糸が減少した。織物類は同7.7%増と2ヶ月ぶりに増加。絹織物、綿織物、黄麻織物、人織(長)織物、人織(短)織物、メリヤス生地、その他の織物が増加し、毛織物のみ減少した。衣類は同0.1%減とほぼ横這いだが4ヶ月連続で減少。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同0.9%増と13ヶ月ぶりの減少から再び増加となった。

前月は円金額が6.3%増加したものの、ドル金額が5.8%の減少、数量も6.3%の減少となったが、今月は円金額が17.1%増加したのをはじめ、ドル金額が2.5%の増加、数量も0.9%の微増となり、各項目揃って増加となった。12月の為替相場は前年同月比14.3%の円安であった。ドル金額の内訳を見ると、二次製品が7.1%の増加、太宗を占める衣類も2.2%増、織物類も0.4%増加したが、糸類は1.6%減少し、繊維製品計では2.5%の増加となった。

2. うち糸類

- ▶ 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比 14.5%増、前年同月比も 2.1%の微増ながら 7 ヶ月ぶりのプラスとなった。これは、昨年末に細番手市況が回復したことと、7 月以降 5 ヶ月連続して 81 年以來となる低水準輸入が続いたことによるものと思われる。全体の 90% 近くを占める純綿糸の輸入を前月に比較すると、首位のパキスタンは太番手の市況回復が遅れていることから 11.7%の減少となったものの、2 位のインドネシア 62.3%、3 位のインド 32.6%はそれぞれ大幅増加となった。番手別では 20 番手中心が 5.2%減、30 番手中心、40 番手以上は 35.8%、23.1%それぞれ増加となった。なお、混紡綿糸も前月に比較して 22.2%の増加となった。
- ▶ 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース 14.4%減と 2 ヶ月連続で減少した。糸種別に見ると、紡毛糸の輸入が同 71.4%の大幅減で 2 ヶ月連続の減少となり、太宗を占める梳毛糸も同 10.9%減となった。国別では、トップシェアの中国が同 16.3%減と 2 ヶ月連続で減少したが、次ぐマレーシアは同 2.6%の増加となった。この他では、前月同様に台湾、タイ、インド、ペルー等主要国からの輸入が減少したなか、イタリアからの輸入は 52.2%増加した。
- ▶ 人繊糸の輸入実績は、トンベースで人繊(長)糸が前月比 4.8%増となったものの、前年同月比は 7.5%の減少となり 6 ヶ月連続のマイナスとなった。主要商品を前月に比較すると、主力の台湾からのポリエステル糸が僅かに 1.3%のマイナスとなったものの、台湾、インドネシアからのナイロン糸は 25.5%の大幅増となり、量的に少ない人絹糸は 1.0%の微増に留まった。一方、人繊(短)糸は主力商品のインドネシアなどからのポリエステル紡績糸が 13.1%、中国、インドネシアからのマイヤー毛布用のアクリル紡績糸も 33.5%、ガムテープ用のスフ糸も 16.8%増になるなど、全体では前月比 17.7%増、前年同月比も 21.1%増となり 23 ヶ月振りのプラスとなった。

3. うち織物類

- ▶ 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 3.5%の減少となったものの、前年同月比は 8.4%増と 3 ヶ月ぶりのプラスとなった。国別で前月に比較すると、全体の約 8 割を占めて寝装向けが多い中国が 3.3%減となったが、2 位のインドネシアが 73.8%、3 位のパキスタンも 18.6%の増加となった。品種別にみると、主力のポプリンが 0.3%増のほぼ横ばい、金巾が 6.7%の増、粗布・細布が 27.2%の大幅減少となった。
- ▶ 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 8.1%減と、2 ヶ月連続で減少した。中国からの輸入が同 2.2%増と 2 ヶ月ぶりに増加したものの、イタリアからの輸入が同 15.6%減と 3 ヶ月ぶりの減少となった。品種別では、紡毛織物が同 39.0%の大幅減で 7 ヶ月連続減少したのに加えて、主力の梳毛織物も同 6.4%の減少となった。

- ▶ 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 10.9%の 2 桁増、前年同月比も 50.4%と大きく増加し、特に前年同月は 14 ヶ月連続プラスとなった。品目別に前月に比較するとポリプロピレン織物など其の他織物が 0.4%微減のほぼ横ばいとなったものの主力商品のポリエステル織物が 17.9%、ナイロン織物も 23.8%の増加となった。国別にみると、首位の中国はポリエステル織物が増加したことにより 36.9%、2 位の韓国 5.6%、3 位の台湾も 9.9%増となったが、ベトナムを含むその他の国は 6.0%の減少となった。一方、人織(短)織物は主力のポリエステル織物うち T/C 織物は増加となったものの、T/C 以外の織物の減少とスフ織物の落ち込みにより前月比は 1.8%の微減となったが、前年同月比は 1.2%の微増となった。

4. うち衣類

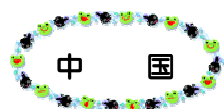
ニット製衣類が対前年同月比枚数で 1.9%増、布帛製衣類も同 2.8%増、身の廻り品も重量ベース 1.6%増となったものの、ニット製外衣が重量ベースで 2.5%減少したことにより衣類計では重量ベース 0.1%減となった。ニット製衣類が 4 ヶ月ぶりに減少した前月から再び増加、布帛製衣類は 2 ヶ月ぶりに増加、身の廻り品は 3 ヶ月ぶりに増加し、衣類計は 4 ヶ月連続で減少となった。

主要国別に見ると

- ▶ 中国は、対前年同月比枚数ベースでニット製衣類が 1.5%増加し 3 ヶ月ぶりの増加、布帛製衣類も 1.7%増加し 2 ヶ月ぶりに増加、身の廻り品も重量ベース 1.1%増で 3 ヶ月ぶりに増加となった。今年 1 月から 12 月までの年間の衣類計（重量ベース）のシェアは 91.4%となった（金額ベースでのシェアは 82.1%）。
- ▶ 韓国はニット製衣類が同 1.6%増加、布帛製衣類も 101.6%増となり 9 ヶ月連続で大幅に増加した。ニット製衣類が 3 ヶ月連続の増加、布帛製衣類も 9 ヶ月連続で増加した。
- ▶ イタリアはニット製衣類が同 2.9%減と 12 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も 12.8%減と 7 ヶ月連続で減少。
- ▶ ベトナムはニット製衣類が同 0.8%減と 8 ヶ月ぶりに減少、布帛製衣類は 3.1%増と 3 ヶ月連続で増加した。
- ▶ 商品別には、ニット製衣類ではアンサンブル、ジャケット、ズボン、ドレス、スカート、アウターシャツ、スポーツウェア、下着類が増加、コート、スーツ、アウターシャツ、セーターが減少。中でも、ジャケットは同 94.0%、ドレスは同 125.9%、スカートは同 90.9%の大幅増となった。布帛製衣類では紳士用が同 1.1%増、婦人用も 6.1%増加した。紳士用ではズボンが増加、コート、スーツ、アンサンブル、ジャケット、下着類が減少、婦人用は、コート、スーツ、ジャケット、ドレス、スカート、ズボン、ブラウスが增加、アンサンブル、下着類が減少となった。

前月は数量が 6.3%の減少、金額は円が 6.3%の増加、ドルが 5.8%の減少となったが、今月は数量が 0.9%の微増、金額は円が 17.1%の増加、ドルが 2.5%の増加となった。円金額の増加は 10%を超える円安が影響している。

速報値ではあるが昨年 1～12 月の年間実績で見ると、繊維製品全体で円金額が前年比 105.8%、ドルベースで同 103.8%、数量(重量)で同 100.6%と、円・ドル金額、数量とも 3 年続けて増加となった。内訳を見ると、糸類は数量(重量)で前年比 8.9%減、円金額で同 8.0%減、ドル金額で同 9.5%減。織物類は数量(重量)で前年比 4.5%増、円金額で同 5.4%増、ドル金額で同 3.4%増。衣類は数量(重量)で前年比 0.5%減、円金額で同 5.7%増、ドル金額で同 3.7%増。衣類を除いた二次製品は数量(重量)で前年比 6.6%増、円金額で同 11.8%増、ドル金額で同 9.5%増となった。



◎ 2005 年の繊維品貿易・輸出は史上初の 1,000 億ドル突破、輸入は微増

【輸出】

—21%増の 1,076 億 8,851 万ドルと、史上初の 1,000 億ドル突破—

枠フリーの時代に入り、注目された 2005 年の中国の繊維品輸出は、欧米向けの貿易摩擦が一時激化したものの、最終的には予想されたとおり、枠フリーの恩恵を生かし、他の諸国を凌駕して、欧米向けを中心に大きく輸出を伸ばし、前年比 21%増の 1,076 億 8,851 万ドルと、史上初めて 1,000 億ドルの大台を突破した。

<地域別、国別輸出状況>

地域別では、東アジアがシェア 43%(横ばい)を占め、西アジアが 6%(16%増)、ヨーロッパが 22%(50%増)、北米が 17%(81%増)、中米が 2%(4%減)、南米が 2%(18%増)、アフリカが 4%(20%増)、大洋州が 2%(16%増)の市場構成となっている。

国別では、1位 EU(171 億 9,482 万ドル:59%増)、続いて日本(170 億 6,911 万ドル:5%増)、米国(166 億 6,751 万ドル:84%増)、香港(143 億 4,980 万ドル:15%減)、韓国(40 億 7,541 万ドル:1%減)、ロシア(35 億 2,420 万ドル:49%増)、アラブ首長国(23 億 2,191 万ドル:8%増)、オーストラリア(21 億 664 万ドル:16%増)、カナダ(19 億 6,944 万ドル:60%増)、シンガポール(15 億 6,626 万ドル:18%増)の順で、この 10 大市場で輸出全体の 75%のシェアを占めている。

2005年12月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出					
	2004年実績		2005年1月～12月		2004年実績		2005年1月～12月			前年比
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
繊維品合計										
原料(綿)合計										
スフ綿	TON	3,891,010	23,001,764	4,416,112	6,817,524	366,255	1,174,664	107,688,506	121	121
合繊綿	TON	172,961	476,381	164,419	467,136	18,404	30,613	30,613	134	126
(ポリエステル)	TON	992,584	1,375,307	835,306	1,381,998	249,556	327,466	327,466	142	160
(アクリル)	TON	507,255	531,489	346,184	423,153	209,965	224,833	224,833	145	157
糸合計	TON	459,536	775,295	484,623	878,156	2,080	4,332	4,332	121	140
人絹糸	TON	1,717,755	3,935,831	1,660,050	4,042,957	1,376,620	4,906,807	4,906,807	117	117
スフ糸	TON	29,258	83,019	26,236	78,212	70,216	248,178	248,178	115	111
合繊長繊維糸	TON	32,122	93,698	26,879	89,390	30,579	126,685	126,685	114	133
(ナイロン)	TON	714,316	1,544,504	616,570	1,543,903	381,855	898,133	898,133	171	173
(ポリエステル)	TON	259,232	557,874	251,020	662,585	78,816	269,546	269,546	142	162
合繊短繊維糸	TON	369,166	573,417	295,494	522,692	260,818	445,658	445,658	190	215
綿糸	TON	172,837	416,877	149,671	376,436	325,104	955,133	955,133	99	109
織物合計	TON	714,472	1,531,898	793,656	1,697,154	469,630	1,400,269	1,400,269	109	105
絹織物	千LM	5,059,862	6,254,606	4,638,058	6,009,460	16,563,084	15,443,436	15,443,436	112	114
人絹織物	千LM	40,805	115,424	45,693	117,096	288,182	721,273	721,273	115	124
スフ織物	千LM	86,658	110,117	82,694	122,550	36,016	31,193	31,193	71	75
合繊長繊維織物	千LM	78,366	125,482	58,124	100,319	898,195	660,363	660,363	119	119
(ナイロン)	千LM	2,241,724	2,066,586	2,016,102	2,029,732	6,144,908	4,716,087	4,716,087	109	108
(ポリエステル)	千LM	797,863	612,423	660,899	585,866	251,307	138,571	138,571	98	114
合繊短繊維織物	千LM	1,102,705	1,063,056	912,650	1,028,690	5,124,232	3,898,319	3,898,319	108	106
綿織物	千LM	793,149	884,220	695,082	792,728	3,337,745	2,289,888	2,289,888	113	127
毛織物	千LM	1,612,068	2,174,494	1,564,514	2,159,441	5,495,734	6,031,459	6,031,459	114	115
不織布	千LM	77,059	610,479	70,407	535,575	99,336	526,030	526,030	104	104
タイヤコード織物	TON	113,385	408,535	135,081	490,543	160,753	361,112	361,112	149	153
コート織物	TON	22,211	79,860	18,313	71,770	79,345	273,436	273,436	136	167
ニット生地	TON	292,959	964,618	264,082	1,025,710	463,269	1,120,590	1,120,590	132	138
ニット製衣料	TON	463,329	1,813,034	460,587	1,879,207	929,084	3,652,257	3,652,257	115	122
布帛製衣料			641,839		695,240		30,875,728			120
その他			792,205		816,218		35,038,492			121
			1,478,315		1,597,452		14,841,986			133

出所:中国海関統計

予想されたとおり、特に 2005 年より枠が撤廃された EU、米国、カナダ向けが衣料品を中心に突出した伸びとなった。また、その他では、ロシア向けが近年大きく伸びているのが注目される。

因みに、衣料品について主要輸出先をみると、ニット製衣料品は、トップ市場は日本（65 億 4,710 万ドル：8%増）、続いて米国（51 億 1,799 万ドル：112%増）、EU（47 億 8,749 万ドル：87%増）、香港（31 億 5,539 万ドル：37%減）、韓国（10 億 8,334 万ドル：19%減）、ロシア（10 億 4,316 万ドル：35%増）の順となっている。

また、布帛製衣料品の輸出先は 1 位が日本（76 億 1,395 万ドル：1%増）、EU（74 億 966 万ドル：64%増）、米国（66 億 381 万ドル：90%増）、香港（32 億 5,955 万ドル：25%減）、ロシア（15 億 8,785 万ドル：56%増）、韓国（12 億 7,584 万ドル：7%減）の順となっている。

<品目別輸出状況>

品目別では、太宗の衣料品はもとより、原料（綿・糸）、織物類の素材の輸出も、国内の大増産を背景に各品目共に好調な推移となっているのが注目される。

まず、中国の繊維品輸出全体の 61%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は 20%増の 659 億 1,422 万ドルとなった。内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品が 20%増の 308 億 7,573 万ドル、また布帛製衣料品及び同付属品は 21%増の 350 億 3,849 万ドルとなった。

織物類の輸出も、太宗の綿織物、ポリエステル長繊維織物を中心に好調に推移し、数量で 12%増の 165 億 6,308 万メートル、金額で 14%増の 154 億 4,344 万ドルと衣料品ほどではないが高率の伸びを維持した。

糸関係の輸出も、太宗の綿糸また合繊長繊維糸の増加が著しく、全体として数量で 17%増の 137 万 6,620 トン、金額で 17%増の 49 億 681 万ドルと、数量、金額共に好調な推移となった。

綿類の輸出も、綿花の輸出は減少したが、羊毛及びポリエステル綿、スフ綿の輸出が大きく伸び、数量で 30%増の 36 万 6,255 トン、金額で 20%増の 11 億 7,466 万ドルと大幅に増加した。

【貿易収支】

—繊維品貿易黒字は前年比 28%増の 842 億 4,243 万ドル—

2005 年の繊維品輸入は、国内での増産もあり、総じて低調で、総額では前年比 2%増の 234 億 4,608 万ドルと微増に止まった。

この結果、中国の 2005 年の繊維品貿易収支黒字額は前年比 28%増の 842 億 4,243 万ドルの巨額に達し、繊維輸出は、中国最大の外貨獲得部門として不動の地位を占めている。

このうち、主要国との繊維品貿易をみると、日本とは 133 億 1,992 万ドル、香港とは 124 億 9,560 万ドル、米国とは 145 億 5,737 万ドル、EU とは 157 億 5,572 万ドルの各々の黒字となり、この 4 カ国で中国の繊維品貿易全体の黒字額の 67%を占めている。



◎ 2005年の繊維品貿易・輸出は堅調、輸入は高水準で推移

<輸出は5%増の67億1,873万ドルと堅調に推移>

タイの通関統計によると、2005年のタイの繊維品輸出は、クオータフリー後、中国品の欧米での攻勢が強まる中で、その動向が注目されたが、前年比5%増の67億1,873万ドルと順調な推移となった。

これを品目別に見ると、タイの最大輸出品目で全体の繊維品輸出の52%を占める衣料品は、ニット製衣料品は最大市場の米国向けの増加により5%増の19億200万ドルと堅調な伸びとなったが、布帛製衣料品は欧米向けの伸び悩みにより1%減の15億8,009万ドルと微減に終わった。

織物類は、量的に伸び悩み、数量で3%減の15万5,026トンとなったが、単価アップにより金額では4%増の9億154万ドルと数量減の金額増となった。内訳は、最大品目の綿織物が数量で2%減の5万7,780トン、金額で1%増の3億4,566万ドル、合繊短繊維織物が数量で6%減の4万8,642トン、金額で横ばいの2億6,865万ドルとなった。

また、合繊長繊維織物は、数量で4%減の3万4,213トン、金額14%増の1億9,249万ドルと数量減の金額増となった。この内訳は、前年不振であったナイロン織物は数量で19%増の2,674トン、金額で64%増の2,023万ドルと大きく盛り返したが、逆に前年好調であった太宗のポリエステル長繊維織物は数量で23%減の1万6,278トン、金額で7%減の9,110万ドルと大きく後退した。

一方、原料関係の輸出は、綿類は、金額で4%増の4億7,810万ドルと堅調な推移となった。中心品目の合繊綿は、ポリエステル綿が金額で5%減の2億7,454万ドルと減少推移、一方、アクリル綿は金額で51%増の9,449万ドルと大きく伸びた。(注：アクリル綿の2004年の数量の統計に疑義があり、金額だけの比較)

糸類の輸出は、数量で1%減の35万1,753トン、金額で10%増の8億1,240万ドルと数量微減の金額増となった。

太宗の合繊長繊維糸は、数量で7%減の19万8,170トン、金額で9%増の3億7,508万ドルで、この内訳は、ナイロン糸は数量で5%減の2万1,539トン、金額で18%増の7,940万ドル、ポリエステル糸は数量で4%減の15万3,318トン、金額で8%増の2億4,920万ドルと何れも数量減の金額増となった。

その他糸類では、綿糸の輸出が数量で21%増の5万4,218トン、金額で13%増の1億4,993万ドルと好調に推移、また合繊短繊維糸は数量で1%増の6万2,563トン、金額で12%増の1億6,086万ドルとなった。

2005年1～12月のタイの繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸					入					
	2004年実績		2005年(1～12)		前年比	2004年実績		2005年(1～12)		前年比	
	数量	金額	数量	金額		数量	金額	数量	金額		
繊維品合計		6,419,471	6,718,734		105		2,716,733	2,929,876		108	
原料(綿)合計	TON	1,057,592	457,679	387,670	37	104	TON	466,926	590,081	126	
スフ綿	TON	34,770	53,920	42,484	122	117	TON	5,728	20,302	101	
合繊綿	TON	960,006	351,866	291,927	30	105	TON	51,943	76,031	102	
(ポリエステル)	TON	264,143	288,309	237,658	90	95	TON	25,776	31,284	113	
(アクリル)	TON	695,438	62,389	53,872	8	151	TON	22,934	38,635	84	
糸合計	TON	354,059	740,004	351,753	99	110	TON	88,768	390,552	109	
人絹糸	TON	2,397	6,982	4,902	204	162	TON	1,562	8,265	124	
スフ糸	TON	25,415	57,388	26,456	104	107	TON	417	1,305	87	
合繊長繊維糸	TON	213,811	342,769	198,170	93	109	TON	62,779	222,486	116	
(ナイロン)	TON	22,610	67,319	21,539	95	118	TON	30,711	108,427	119	
(ポリエステル)	TON	160,276	231,759	153,318	96	108	TON	25,546	60,532	133	
合繊短繊維糸	TON	62,140	143,385	62,563	101	112	TON	7,976	48,209	69	
綿糸	TON	44,793	132,611	54,218	121	113	TON	12,009	64,467	98	
織物合計	TON	159,955	870,389	155,026	97	104	TON	107,216	641,839	105	
絹織物	TON	200	13,937	250	125	102	TON	98	5,653	103	
人絹織物	TON	1,101	6,650	388	35	36	TON	1,176	10,751	106	
スフ織物	TON	11,873	65,393	12,846	108	115	TON	19,081	53,972	116	
合繊長繊維織物	TON	35,817	168,708	34,213	96	114	TON	30,362	173,332	105	
(ナイロン)	TON	2,246	12,355	2,674	119	164	TON	4,897	37,956	84	
(ポリエステル)	TON	21,104	97,611	16,278	77	93	TON	17,045	94,910	78	
合繊短繊維織物	TON	51,663	269,874	48,642	94	100	TON	16,301	84,309	83	
綿織物	TON	58,793	343,060	57,780	98	101	TON	37,090	260,596	105	
毛織物	TON	101	1,309	117	855	116	TON	1,529	37,437	110	
不織布	TON	27,977	73,498	32,650	85,654	65	TON	13,704	55,221	87	
タイヤコード織物	TON	18,639	62,368	19,208	78,468	117	TON	18,404	55,810	122	
コーテッド織物	TON	12,669	41,900	13,752	44,953	126	TON	14,432	41,304	140	
ニット生地	TON	27,787	143,830	31,301	155,569	107	TON	39,627	309,153	107	
ニット製衣料			1,813,051		1,902,003	108			47,784	357,194	116
布帛製衣料			1,590,724		1,580,086	105			88,001	67,217	76
その他			626,027		679,758	99			84,809	114,323	135
						109			313,114	368,108	118

(注)2004年の合繊綿・合繊綿アクリルの数量は疑義があるが、タイ統計原本どおり。

市場別では、州別で北米（シェア：33%）が2%増、東アジア（シェア：33%）が8%増、ヨーロッパ（シェア：21%）が3%増となっており、この3大市場で全体の87%を占めている。

国別では、米国、EU、日本、中国、香港、アラブ首長国、インドネシアが7大輸出市場で全繊維品輸出の68%を占めている。このうち、最大市場の米国向けが2%増の21億2,274万ドル、EUが1%増の12億4,831万ドル、日本が4%減の4億1,447万ドル、中国が6%増の2億8,008万ドル、香港が8%減の1億7,784万ドル、アラブ首長国が8%増の1億7,371万ドル、インドネシアが21%増の1億5,187万ドルとなった。その他主要輸出国は、マレーシア（1億1,615万ドル：13%増）、ベトナム（1億1,592万ドル：36%増）、インド（1億1,430万ドル：17%増）、フィリピン（1億944万ドル：21%増）と何れも好調な推移となった。

<輸入は8%増の29億2,988万ドルと高水準で推移>

輸入も輸出の増勢を背景に、8%増の29億2,988万ドルと比較的高水準で推移した。

綿類の輸入は、天然繊維原料の輸入を主体に数量で26%増の59万81トン、金額で7%増の7億8,788万ドルとなった。

糸類の輸入は、合繊長繊維糸主体に数量で9%増の9万7,023トン、金額で2%増の3億9,994万ドルとなった。

織物類の輸入は、主要品目では、綿織物が大幅に増加し、合繊長繊維織物は減少したが、全体として数量で5%増の11万2,406トン、金額で1%増の6億4,567万ドルと数量、金額共に増勢推移となった。

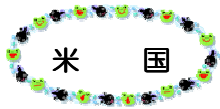
また、ニット生地も、数量で21%増の4万7,784トン、金額で16%増の3億5,719万ドルと2桁の増加推移となった。

一方、衣料品の輸入は、ニット製衣料品が24%減の6,722万ドルと大幅に減少したのに対し、布帛製衣料品は35%増の1億1,432万ドルと大幅に伸び、対照的な推移となった。

市場別では、州別で東アジアが65%と圧倒的なシェアを占め8%増、続いて北米が10%を占め16%増、欧州が10%を占め9%増となっている。

国別では、中国、台湾、日本、米国、EU、香港、オーストラリアが7大輸入先で全繊維品輸入の75%を占めている。最大輸入先の中国からの輸入は14%増の6億9,066万ドル、続く台湾が5%減の3億1,135万ドル、日本が10%増の3億440万ドル、米国が17%増の2億9,367万ドル、EUが8%増の2億6,215万ドル、香港が3%増の1億7,449万ドル、オーストラリアが5%減の1億5,578万ドルの順で台湾、オーストラリアを除いて軒並み増加推移となった。

その他主要輸入先は、韓国（1億2,307万ドル：16%減）、インドネシア（1億313万ドル：11%増）等となっている。



◎ 2005年の繊維品輸入、史上最高輸入量を記録

2005年12月の米繊維品輸入は、中国からの輸入が引続き大幅に増加したものの、全体では6%増となり、4カ月続いた9%以上の大幅増から減速した。

2005年の米繊維品輸入は8%増となり、年間輸入としては過去最高の輸入量を記録した。年間輸入でも、中国からの輸入が著しく増加し、そのシェアは33%と全体の3分の1を占めている。

<2005年12月の輸入>

2005年12月の米繊維品輸入は38億3,000万SME(平方メートル換算)で前年同月比5.8%増となり、4カ月続いた9%以上の大幅増から減速し、2005年7月(3.3%増)以来の低い伸び率となった。

12月の輸入のうち、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)

は5.7%増、アパレルは5.9%増で、

共に5%台の伸び率となった。地域別では、中国からの輸入が31.1%増の11億9,600万SMEと、引続き大幅に増加した。

<2005年の輸入>

2005年(1~12月)の米繊維品輸入は前年比8.3%増の508億4,200万SMEとなった。伸び率は2002年~2004年の3年連続の二桁増から一桁台に鈍化したが、輸入量は初めて500億SME台に達し、史上最高輸入量を記録した。2005年の輸入のうち、ノン・アパレルが6.8%増、アパレルが10.3%増となった。

2005年の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	▲0.7	16,103	0.4	32,812	▲0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,830	6.8	22,012	10.3	50,842	8.3
1月	2,247	5.0	1,646	8.5	3,892	6.4
2月	2,208	17.3	1,759	2.2	3,968	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,069	5.8
4月	2,339	1.5	1,550	11.7	3,888	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	▲1.4	2,065	19.5	4,552	7.1
7月	2,352	0.1	1,991	7.3	4,344	3.3
8月	2,592	8.2	2,160	13.3	4,752	10.4
9月	2,489	12.0	2,127	8.9	4,617	9.6
10月	2,576	13.8	1,917	6.3	4,492	9.3
11月	2,420	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,235	5.7	1,596	5.9	3,830	5.8

注：前年比は増減、▲は減少。 出所：米商務省(DOC)

- アジア地域では、いわゆるビッグ4（中国、韓国、台湾、香港）からの輸入が27.7%の大幅増となり、特に中国は43.8%増と著しく増加し、そのシェアは前年の25%から33%に拡大し、4年連続して供給国第1位の地位を堅持している。一方、韓国、台湾、香港は、中国の大躍進の煽りを受けて、いずれも二桁の大幅な減少となった。
- アセアンからの輸入では、新興市場のベトナムとカンボジアが順調に伸びたが、伝統市場のうち、タイとフィリピンが大幅減となり、アセアン全体としては0.1%増のほぼ横ばいとなった。
- 米近隣諸国からの輸入では、NAFTA（北米自由貿易協定）パートナーのメキシコとカナダはそれぞれ5.3%、8.0%の大幅な減少となり、この結果、両国合わせて6.5%減となった。なお、メキシコは中国に次いで供給国第2位の地位を維持しているものの、カナダはパキスタンに追い抜かれて前年の供給国第3位から第4位に転落した。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	前年比
全世界	32,864	32,812	38,288	42,227	46,936	50,842	8.3
NAFTA	7,951	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	▲6.5
メキシコ	4,747	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	▲5.3
カナダ	3,204	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	▲8.0
CBI	3,788	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	0.0
ホンジュラス	1,046	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	4.4
エルサルバドル	757	768	817	895	895	897	0.2
ドミニカ共和国	859	773	743	758	772	725	▲6.2
ビッグ4	5,886	5,911	9,348	12,633	16,128	20,598	27.7
中国	2,218	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	43.8
韓国	1,312	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	▲11.9
台湾	1,233	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	▲16.8
香港	1,123	1,092	962	892	862	721	▲16.4
アセアン	4,228	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	0.1
タイ	1,317	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	▲5.6
インドネシア	1,053	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	6.2
フィリピン	929	916	817	794	711	643	▲9.5
ベトナム	35	33	358	827	905	951	5.0
カンボジア	265	389	474	561	673	740	10.0
EU（15カ国）	1,863	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	▲7.3
イタリー	562	521	518	533	462	385	▲16.6
ドイツ	359	457	551	484	479	453	▲5.3
その他	9,148	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	0.5
パキスタン	1,997	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	10.8
インド	1,248	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	22.0
バングラデシュ	1,131	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	18.5
トルコ	867	871	1,068	1,026	982	844	▲14.1

また、CBI からの輸入は、太宗国のホンジュラスが堅調に推移したものの、エルサルバドルはほぼ横ばい、ドミニカ共和国は大幅減となり、全体で横ばいとなった。

- EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツからの織物の不振が影響して、7.3%減となった。
- 「その他地域」からの輸入では、上記の通り、カナダを追い越して供給国第3位に浮上したパキスタンが10.8%増、同第5位のインドが22.0%増、バングラデシュも18.5%増と、アジア諸国が「ポスト・クォータ」のメリットを享受して好調に推移した。

◎ 2006年1月の米大手小売店販売、順調に推移

米国の国際ショッピング・センター協会(ICSC)が纏めた「米チエーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店65社の2006年1月の売上高は前年同月比(既存店比、以下同じ)5.1%増と予想外に伸びた。この伸び率は、前月(3.2%)及び前年同月(3.6%)を大きく上回り、2005年6月(5.2%)以来の高い伸び率である。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位：%

年月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.1
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.9	

注：伸び率は前年同月比(既存店比)の増減を示す。

アナリストは、1月の大手小売店の販売について、「原油高にもかかわらず、個人消費は底堅く、買い物客はクリアランス・セールで冬物衣料だけでなく、暖冬対応の春物衣料を求めて、ストアやモールに押し寄せたようだ」と分析している。

ストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

- 大手百貨店の1月の販売は、殆どの百貨店が順調に推移した。とりわけ、高級百貨店が好調で、ノードストロムが6.0%、ニーマン・マーカスが4.1%、サクスが4.0%のそれぞれ増加となった。このうち、ニーマン・マーカスは、地域では南東部と西部、商品では女性用のコンテンポラリー・スポーツウエア、デザイナー・アパレル、デザイナー・ハンドバッグ、室内装飾品が好調であった。

また、サクスでは、女性及び男性供用コンテンポラリー・スポーツウエア、ジュニア用アパレル、女性用のデザイナー・アパレル、ラージサイズ・スポーツウエア、インティメート・アパレル、アクセサリがベスト・セール品目であった。

中級百貨店は何れも堅調に推移し、ディラードが3.0%、J. C. ペニーが2.5%、コールズが2.0%、フェデレーテッドが1.0%のそれぞれ増加となった。このうち、ディラードは、商品ではメンズ・アパレル、ランジェリー、アクセサリ、室内装飾品、また地域では西部と東部が全体の平均伸び率を上回った。

また、J. C. ペニーは、「1月の販売は、冬物と春物の両方とも消費者の好反応を得て、月間を通して堅調に推移した。商品では、子供用アパレル、女性用アクセサリ、ファミリー・シューズが最高の売上げを示した」と述べている。

- 大手衣料品専門店チェーンの1月の販売は、一部を除き、全般的に順調に推移した。

若者向け衣料品専門店チェーンでは、ティーンエイジャー向け専門店チェーンが好調で、アバンクロンビー&フィッチの33.0%増を筆頭に、エアロポステールが12.3%増、アメリカン・イーグルが11.3%増と大きく伸びた。

他方、2大衣料品専門店チェーンのリミテッド・ブランドとギャップは停滞しており、リミテッド・ブランドは横ばい、ギャップは1.0%の微増となった。

このうち、最大手の

米主要小売店の2006年1月の販売状況

単位：100万ドル、%

小売店名	売上高	
	前年同月比	
<百貨店>		
ディラード	507	3.0
フェデレーテッド	1,497	1.0
J. C. ペニー	898	2.5
コールズ	676	2.0
ニーマン・マーカス	253	4.1
ノードストロム	431	6.0
サクス	316	4.0
<衣料品専門店チェーン>		
アバンクロンビー&フィッチ	184	33.0
アメリカン・イーグル	128	11.3
アン・テラー・ストア	123	10.9
エアロポステール	61	12.3
チャーミング・ショップズ	165	8.0
ギャップ	955	1.0
リミテッド・ブランド	783	0.0
メンズ・ウエアハウス	116	3.0
パシフィック・サンウエア	75	4.9
タルボット	132	0.8
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	3,566	5.2
ウォル・マート	22,675	4.7

ギャップは、「1月の販売では、当社ブランド品、クリアランス・セール商品に対する手応えを感じたが、商品マージンは前年同月を僅かながら下回った」と説明している。部門別では、ギャップが3%増、ギャップ・インターナショナルが7%増となったが、オールドネイビーは横ばいにとどまり、バナナリパブリックは6%減となった。

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンは、アン・テラー・ストアが10.9%の大幅増となったのに対し、タルボットは0.8%の微増にとどまった。このうち、アン・テラー・ストアは、「アン・テラー（高級衣料品店）部門が15.7%増、アン・テラー・ロフト（手頃価格衣料品店）部門が8.4%増と、両部門とも大幅な増加となったが、これは顧客が早めの春物を積極的に受け入れたことによる」と説明している。

その他、婦人用プラスサイズ衣料品専門店のチャーミング・ショッप्ズが8.0%増、メンズ・ウェア専門店のメンズ・ウェアハウスが3.0%増と、いずれも売上げを伸ばしている。

- 大手ディスカウント・ストアの1月の販売は、ターゲットが5.2%増、ウォル・マートが4.7%増と共に順調に伸びた。このうち、ウォル・マートは、2004年5月（5.9%増）以来の高い伸び率となったが、「これは、衣料品や家庭用品などの商品の質を高めたことが奏功したことによる」と語っている。

組合関係の会議と催事

【2006年2月】

輸出入

I. 大手組合員首脳と経済産業省による「情報懇談会」が開催。

輸出

I. 平成17年度第2回包括保険委員会の書面審議を執行。

輸入

I. 「第139回企画委員会」「第3回組合運営に関するタスクフォース」開催。
II. 東京・大阪・名古屋で「貿易実務の基礎-実践編研修会」を開催。

2日(木)

輸入 (東京) 「第3回組合運営に関するタスクフォース」(池西議長)が開催され①日タイ FTA 協議②アンケート結果③中期収支見通し④「輸出入組合/上海分会」設置⑤繊維連会費分担金増額についてそれぞれ説明と審議が行われた。

6日(月)

輸出入 (東京) 大手組合員首脳と経済産業省による「情報懇談会」が開催された。

8日(水)

輸入 (東京) 飯野ビル・キャッスルにおいて「第139回企画委員会」(吉澤委員長)が開催され①各委員会2006年輸入見通しと委員会活動報告②FTA等進捗状況③「輸出入組合/上海分会」設置④繊維連会費分担金増額⑤3Rアクションプランの実施⑥中小企業基盤整備機構からの受託事業⑦その他(日中繊維貿易定期協議開催)について説明と審議が行われた。

14日(火)

輸出 (大阪) 「中国国際服装繊維品博覧会・説明会」が輸出繊維会館BMホールにて開催。組合員など約60名が参加した。

15日(水)

輸入 (東京) 国際繊維統計に関する打合せが行われた。

16日(木)

輸出 (東京) 「中国国際服装繊維品博覧会・説明会」が赤坂プリンスホテルにて開催。

21日(火)

輸入 (名古屋) 「貿易実務の基礎-実践編研修会」が大谷巖ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて名古屋商工会議所会議室で開催され、組合員20名が出席した。

22日(水)

輸入 (大阪) 「貿易実務の基礎-実践編研修会」が大谷巖ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えて輸出繊維会館BMホールで開催され、組合員84名が出席した。

24日(金)

輸入 (大阪)「第81回中国アジア専門委員会」(細田委員長)が開催され、①来年度事業②情報交換③中国での国家紡績品基本安全技術規範の検査強化についてそれぞれ意見交換と説明が行われた。

24日(金)～25日(土)

輸出 (博多)「繊維品輸出荷主連合会」(T S A)が「博多港見学会」を実施し、T S A会員8名が参加した。

27日(月)

輸出 (大阪)平成17年度第2回包括保険委員会(安藤委員長)の書面審議を執行し、平成18年度「貿易一般保険包括保険(繊維品)特約」の締結について承認を得た。

28日(火)

輸入 (東京)「貿易実務の基礎・実践編研修会」が大谷巖ジェトロ認定貿易アドバイザーを講師に迎えてTFTビル会議室で開催され、組合員121名が出席した。

3月のスケジュール(3月1日現在)

1日(水)	輸入	(東京)	「アパレル委員会正副委員長会議」
2日(木)	輸出	(大阪)	「アパレル部会」(大阪)
3日(金)	輸入	(東京)	貿易政策調査研究(タイ)打合せ
	輸入	(大阪)	「第24回綿委員会」
6日(月)	輸出	(大阪)	「織・編物委員会」
7日(火)	輸出	(大阪)	「原料委員会」
8日(水)	輸出	(大阪)	「不織布委員会」
13日(月)	輸出	(横浜)	「スカーフ部会」
14日(火)	輸入	(東京)	JICA国別研修(ルーマニア)研修生来所
15日(水)	輸出	(大阪)	「家庭用品部会」
16日(木)	輸出	(大阪)	「製品資材部会」
			「漁網・漁網糸部会」
17日(金)	輸出	(東京)	「アパレル部会」(東京)
	輸入	(名古屋)	名古屋事務所世話人会
22日(水)	輸出	(大阪)	「企画委員会」
24日(金)	輸出	(大阪)	「第25回理事会」(書面審議)

◎ 繊維品輸出荷主連合会（TSA）、「博多港港湾見学会」を実施

輸出組合が参画している繊維品輸出荷主連合会（TSA）は、2月24日～25日、福岡市港湾局の協力を得て、以下の行程でもって博多港の視察・見学会を実施した。視察・見学会参加者は8名であった。

【行程】

2月24日

9時29分	新大阪発（新幹線にて移動）
11時57分	博多駅着
13時50分～14時50分	博多港内見学＝公務艇「なのつ」に乗船、見学 （姪浜渡船場～地行浜～IC・アイランドシティ～香椎PP・ パークポート～箱崎埠頭～中央埠頭～博多埠頭）
15時10分～16時20分	福岡市港湾局及び博多港埠頭㈱との懇談、質疑応答 （於：香椎PPターミナルビル）
17時00分	ホテル着

2月25日

現地にて解散

輸入

組合業務報告

－東京・大阪・名古屋で「貿易実務の基礎-実践編研修会」を開催－

輸入組合は2006年2月、東京・名古屋・大阪地区で「貿易実務の基礎研修会」（大谷講師）を開催した。開催概要及び講演項目は以下のとおりである。

「貿易実務の基礎研修会」

〈開催概要〉 講師：ジェトロ認定貿易アドバイザー 大谷 巖 氏

東京地区 日 時：2006年2月28日（火） 10：00 ～ 16：00
場 所：東京ファッションセンター（TFTビル）会議室
聴講者：121名

名古屋地区 日 時：2006年2月21日（火） 10：00 ～ 16：00
場 所：名古屋商工会議所会議室
聴講者：20名

大阪地区 日 時：2006年2月22日（水） 10：00 ～ 16：00
場 所：輸出繊維会館 BM大ホール
聴講者：84名

〈講演項目〉

序 章 はじめに

第一章 市場と調査

- A. 商品と海外市場調査 B. 取引商品・パートナーの見つけ方
- C. 信用調査

第二章 貿易取引の形態

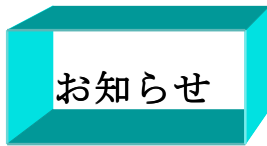
- A. 直接貿易と間接貿易 B. 代理店取引 C. 一手販売取引

第三章 引合から契約まで

- A. 価格算出 1. 輸出価格の構成 2. 輸入価格の構成
- B. 取引条件 1. 品質条件 2. 数量条件 3. 価格条件 4. 受渡条件
- 5. 決済条件 6. その他の条件
- C. 引合い
- D. オファー・カウンターオファー
- E. 契約成立

	F. 貿易取引の流れ
第四章	インコタームズ (International Commercial Terms)
第五章	貿易貨物の輸送
	A. 海上輸送
	B. 航空運送 1. 直送貨物の運送 (一般貨物)
	2. 混載貨物の運送
	C. 国際複合一貫運送(International Multimodal [or Combined] Transport)
第六章	船積書類 (Shipping Documents)
	A. 船荷証券 (Bill of Lading)
	1. 指図式(Order B/L) と記名式 Straight B/L)
	2. 船積 B/L(Shipped B/L) と受取 B/L Received B/L)
	3. 無故障 B/L(Clean B/L)と故障付 B/L(Foul B/L)]
	4. 遅延 B/L (Stale B/L)
	5. 通し B/L (Through B/L)
	6. 複合輸送 B/L(Combined Transport B/L)
	7. 海上貨物輸送状(Sea Waybill)
	8. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
	9. 航空貨物輸送状(Air Waybill)
	B. 商業送り状(Commercial Invoice)
	C. 梱包明細 (Packing List)
	D. 保険証券(Insurance Policy)
第七章	取引決済方法
	A. 信用状付き為替手形決済
	1. 信用状の意義 2. 信用状の種類 3. 信用状発行及び接受時の留意事項
	4. 信用状の開設 5. 条件不一致 (Discrepancy)
	B. 信用状なしの為替手形決済
	1. D/P 決済 2. D/A 決済
	C. 為替手形無しの決済
第八章	保険
	A. 海上保険
	1. 共同海損と単独海損 2. 単独海損分損不担保 (FPA)
	3. 単独海損分損担保 (WA) 4. 全危険担保 (A/R)
	5. 戦争保険とストライキ保険
	6. 保険の始期と終期 7. 予定保険
	8. クレーム提起と保険金請求

- B. 貿易保険
- C. 製造物賠償責任保険 (PL 保険: Product Liability Insurance)
- 第九章 外国為替
 - A. TTS と TTB B. 為替先物予約 C. 為替リスク回避策
 - D. 採算レート E. 改正外為法
- 第十章 貿易関係法規
 - A. 外為法による規制・管理
 - 1. 輸出管理・規制 (輸出貿易管理令)
 - 2. 輸入管理・規制 (輸入貿易管理令)
 - B. 輸出入取引法による管理
 - C. 国際条約・協定による管理・規制
- 第十一章 関税制度
 - A. 関税三法
 - 1. 関税法 2. 関税定率法 3. 関税暫定措置法
 - B. 関税率
 - C. 特別な関税制度
 - 1. 特恵関税制度 2. 関税割当制度
 - 3. 簡易税率制度 4. 特殊関税
- 第十二章 輸出入通関と船積み・荷受の手順
 - A. 輸出通関 B. 船積み手順と書類の流れ (B/L 発行されるまで)
 - C. 輸入通関 D. 輸入貨物の荷受 (コンテナ船の場合) E. 保税地域
- 第十三章 クレームとその解決
 - A. 貿易クレーム
 - 1. 品質に関するクレーム
 - 2. 数量に関するクレーム
 - 3. 貨物受渡しに関するクレーム
 - 4. 価格決済に関するクレーム
 - 5. マーケット・クレーム (Market Claim)
 - B. クレーム解決法
 - 1. 和解 2. 調停 3. 仲裁 4. 訴訟



◎ 繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 18 年 4 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 17 年 10 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
- * 平成 17 年 4 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの

(注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっています。

1. 提出期限：平成 18 年 4 月 20 日 (木)
2. 提出書類：① 貿易一般保険包括保険(繊維品)
保険期間延長依頼書 2 通
(用紙は事務局で準備しています。)
② 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先：総務部 (☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2005 年 10 月度受付保険申込書番号

記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	106220～ 106932 ----- 508334～ 509286	102772～ 103130	100288～ 100320

前受け以外に係る 2005 年 4 月度受付保険申込書番号

記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 5	102346～ 103002 ----- 502911～ 503767	100942～ 101247	100132～ 100155

◎ 安全保障貿易に係る輸出管理の厳正な実施について（輸出組合）

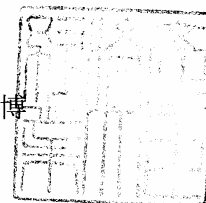
経済産業大臣より、輸出組合・小藪理事長宛に標記について、組合員各位への周知徹底の要請がありましたので、以下の通り、連絡致します。

経済産業省

平成 18・03・01 貿第 4 号
平成 1 8 年 3 月 3 日

日本繊維輸出組合
理事長 小藪 博 殿

経済産業大臣 二階 俊博



安全保障貿易に係る輸出管理の厳正な実施について

我が国は、平和国家としての立場から、大量破壊兵器等の不拡散政策を堅持し、大量破壊兵器等に関連する貨物の輸出や技術提供に関し、国際協調の下に外国為替及び外国貿易法（以下「外為法」という。）に基づき、厳格な輸出管理を行ってきております。

大量破壊兵器等に関連する貨物・技術の輸出管理の重要性は、我が国のみならず国際的にも高まっており、国連安全保障理事会、先進国首脳会議や A P E C も含め、様々な場においても繰り返し確認されているところですが、大量破壊兵器等の拡散防止の推進について中心的役割を担っている国のひとつとして、我が国の責任はますます重くなってきていると認識している次第です。

これまでも、法令遵守及び輸出管理体制の整備につきましては、繰り返し要請してきているところですが、最近の状況を踏まえ、改めて別添記載の事項に十分御留意の上、輸出管理について全社をあげて取り組んでいただくよう要請いたします。

(別添)

- 1 外為法等の遵守及び輸出管理の重要性についての周知徹底
 - (1) 外為法等の遵守及び輸出管理の重要性について、経営トップ以下が改めて認識を深め、場合によってはその不備が企業の存亡に関わるという点も含めて、社内、子会社・関連会社、海外子会社に対して周知徹底すること。
 - (2) 社内における輸出管理体制の整備や実際の輸出管理の実施等に当たっては、経営トップが責任をもって実行すること。
 - (3) 当省としても、今後随時の立入検査を強化することとしており、検査結果については、社内に周知徹底するとともに、輸出管理の不備事項については、企業の代表権を有する者から弁明書及び改善誓約書の提出を求めるので、留意すること。

- 2 輸出管理体制の整備及び確実な実施
 - (1) 企業の代表権を有する者を輸出管理の最高責任者とする輸出管理体制を整備し、該非判定や輸入者・最終需要者等の審査に当たっては、事業部だけの判断に委ねず、役員以上を最終判断権者とする輸出管理統括部署において検証の上、最終的な取引の可否につき判断すること。
 - (2) 輸入者・最終需要者等については、初めて引き合いがあった場合には、その引き合いルートにかかわらず、軍事関連企業との取引等懸念すべき点がないか等を慎重に審査することはもちろんのこと、取引開始後もその動向等を把握し、定期的に再度審査を行うこと。
 - (3) 出荷・輸出される貨物等が、関連書類に記載された貨物等と同一であることを確認するとともに、通関時に事故が発生した場合には、輸出管理統括部署に速やかに報告される体制を整備すること。
 - (4) 輸出等に関連する文書は、輸出時から少なくとも5年間は保存すること。
 - (5) 外為法においては、貨物だけでなく、技術移転等の役務提供についても規制対象となっていることを十分認識し、厳格に管理を行うこと。
 - (6) 輸出管理社内規程（コンプライアンス・プログラム）を整備し、自己管理チェックリスト等により、その確実な履行がなされていることを輸出管理統括部署において確認すること。また、状況の変化があった場合には、機動的に輸出管理社内規程を見直すこと。
 - (7) 懸念貨物等が、第三国を経由して懸念国に渡る事例が世界的に見られるところ、海外子会社において、これらの懸念貨物等の拡散に関与したことが明らかになれば、企業の社会的責任が問われかねないことを十分認識の上、海外子会社における輸出管理社内規程の策定等を通じた輸出管理の厳格な指導を行うこと。
 - (8) 不正な輸出等がなされないよう万全を期すため、輸出管理社内規程の履行の一環として監査を定期的実施し、輸出管理体制の不備や不正輸出等がないかを十分チェックすること。

- 3 許可条件等の遵守及び一般包括許可の適正な使用
 - (1) 許可申請内容が機微度が高い場合等において、最終需要者における定期的な使用状況等の報告、最終需要者から移転される場合の輸出者及び当省の同意等を、許可条件として付したり、誓約書の提出を求めたりする場所があるところ、

その確実な履行がなされるよう、輸出管理統括部署において、十分指導すること。

- (2) 許可条件等に違反した場合には、当該許可の取消、今後の輸出案件の不許可、さらには罰則の適用があることにも留意し、輸入者及び最終需要者にも理解を求め、その確実な遵守を図ること。
 - (3) 貨物等及び仕向先に応じて使用できる許可の種類（個別許可又は一般包括許可）が決まっているところ、輸出等に当たっては使用する許可証を十分に確認して輸出等を行うこと。
 - (4) 一般包括許可の条件として付している項目（軍事用途に使われるおそれがある場合の届出、軍事用途に使われる場合の失効等）についても、確実な履行を図ること。
 - (5) 輸出管理体制が不十分と認められる場合や、法令違反等があった場合には、一般包括許可の取消等があることに留意し、輸出管理社内規程の策定及び確実な履行を図ること。
 - (6) 一般包括許可の取得・更新に当たっては、経営・営業部門を当省が行う輸出管理説明会へ参加させること。また、経営トップも自ら積極的に参加すること。
- 4 当省及び財団法人安全保障貿易情報センター等における情報・支援制度の活用
- (1) 輸入者や最終需要者等に関する懸念情報については、当省が提供しているキャッチオール規制に係る「外国ユーザーリスト」を参照するとともに、例えば、財団法人安全保障貿易情報センター（以下「C I S T E C」という。）が提供しているいわゆるチェーサー情報等も確認すること。
 - (2) 当省及びC I S T E Cにおいて、外為法の制度・運用及び大量破壊兵器関連貨物等に係る諸情勢等について、各種説明会の開催、モデル輸出管理社内規程や海外子会社における輸出管理関連資料等の提供等の支援も行っているため、その活用を図ること。

お知らせ

－ 2006 年 4 月の輸入通関手続相談窓口開設日 －

2006 年 4 月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫 8 手続等々通関業務諸問題
についてご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2006 年 4 月 12 日（水）及び 4 月 26 日（水）
2. 場 所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時 間 午後 1 時より午後 5 時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03 (3270) 0791

Fax 番号 03 (3243) 1088

E - Mail 0023@j t i a . o r . j p (片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以 上

組合員情報

- 組合員の脱会

(輸 出) 株式会社 ダイエー (2006 年 2 月 22 日付け)

取引照会・展示会案内

【原文は、輸入及び展示会は輸入組合・市場対策室(Tel:06-6202-5575)に保管していますので、必要な向きはご照会下さい。また、輸出の詳細は同組合のホームページ(<http://www.jtea.or.jp>)をご覧ください。】

輸入

No.4321 インド 衣料品等

会社名 : SEEMA FASHIONS.

住所 : B-186, Nehru Nagar, Pani Pach, Jaipur-302 016, Rajasthan, India

担当者 : Mr. Manoj Chirania, Export Manager

F A X : 91-141-230-3017

T E L : 91-141-230-1869

品目 : All Kind of Garments and Made-Ups.

輸入

No.4322 インド 綿糸

会社名 : I. C. TEXTILES LIMITED

住所 : 1204-09, Pragati Tower, 26, Rajendra Place, New Delhi-110 008, India

担当者 : Mr. Binu Shukla, Export Maqnager

F A X : 91-11-2575-5168

T E L : 91-11-3096-3334-35

品目 : 100% Cotton Combed & Carded Yarns.

輸入

No.4323 トルコ タオル

会社名 : ALTEZ TEKSTIL SAN. VE TIC. LTD. STI.

住所 : Keresteciler Sitesi, Fatih Cad. Selvi Sok. Sayar is Merkezi 2, 34010 Merter-Istanbul, Turkey

担当者 : Mr. Fisun Melikoglu, General Manager

F A X : 90-212-641-4203

T E L : 90-212-641-0303

品目 : Towels, Bathrobes, Bed Linen Sets, etc..

輸入

No.4324 デンマーク 家庭用品

会社名 : LIDAN

住所 : Henrik Steffensvej 3, 3th, DK-1866 Frederiksberg. C, Denmark

担当者 : Mr. Renata Jacobsen, Director

F A X : 45-33-31-3740

T E L : 45-33-31-3740

品目 : Bedlinen, Table Cloths, Napkins, etc.

輸出

No.2006-1 中国 織物

会社名 : MINYAO TEXTILE COMPANY LIMITED

住所 : Rm.78-402, Jinjuyuan, 1467-4 Caobao Road, Shanghai, 201101, China

担当者 : Ms. Lily, Purchasing Dept.

F A X : 86-21-5478-8917

T E L : 86-21-5478-8912

品目 : Woven & Knitted Fabrics of Cotton/Man-made/Polyester/Modal/Tencel/Spandex, etc..

《海外》

No.1064 PERU

2006年ペルーモダ及びペルーデコ見本市
(Perumoda and Perudecor 2006)

会期：2006年4月26日(水)～28日(金) 9:30～18:30

会場：Vertice del Museo de la Nacion (Av. Javier Prado Este 2465, San Borja, Lima, Peru)

主催：ペルー輸出振興機構(PROMPEX)

後援：ペルー大使館

出展社数：約200社

展示商品：ペルーの糸、織物、アパレル、インテリア用品、アクセサリ、服飾雑貨等

問い合わせ先：ペルー大使館 商務部 坂本(Tel:03-3406-6486)